

白山ミュージアム

TORIGOE IKKOUIKKI REKISHIKAN

CHYOJOHO NO SATOFAKIKAN

MATTO HAKUBUTSUKAN

ISHIKAWA RU-TSU KOURYUKAN

NAKAGAWA KAZUMASA KINEN BIJUTUKAN

TSURUGI HAKUBUTSUKAN

MATTO FURUSATOKAN



二曲城跡発調査で発見された石垣

白山市出合町にある国指定史跡の二曲城跡では、発掘が、進められ、多くの成果を得ることができました。

二曲城は鳥越城とともに、一向一揆や織田勢が駆け抜けていった加賀を代表する歴史の舞台です。発掘によって、戦国期の姿を想像する手掛りが、ようやく与えられるのです。

「鳥越一向一揆歴史館」は、平成13年に開館しました。一向一揆最後の砦と呼ばれる鳥越城と山内のあゆみが、概観できます。

一向一揆の歴史を学ぶことのできる、全国でも唯一といつてよい施設です。そのため県外からも多くの入館者があります。

鳥越城・二曲城の発掘成果を随時展観するほか、企画展によって新たな一向一揆像を表現するようにつとめています。

contents

■ 鳥越一向一揆歴史館	1・2	■ 石川ルーツ交流館	8
■ 千代女の里俳句館	3・4	■ トピックス	9
■ 白山市ガイドマップ	5・6	■ 平成21年度行事予定等	10
■ 松任博物館	7		

鳥越城と山内の城郭

加賀一向一揆の歴史を今に伝える

鳥越二向一揆歴史館は、平成13年の開館以来、企画展を通して、一向一揆と鳥越城跡とりえしやあとつげたりかどけしやあと附二曲城跡ふにまがらみのあゆみアピールしています。

鳥越城跡では、発掘調査にもとずき、整備事業が行われ、本丸門・櫓形門・中の丸門の三門が復元されました。二曲城跡でも発掘調査が始まりました。

この状況をふまえ、平成21年度は企画展「鳥越城と山内の城郭」を実施します。

近年中世の城館跡をめぐる研究の進展はめざましく、考古学からのアプローチがなされるようになり、鳥越城以外の城館跡、たとえば白山市八幡町の舟岡山城へも関心が向けられています。

舟岡山城等の城館と鳥越城の

関係は、どのように関係したのでしょうか。山内の一揆は域内および周辺の城館を拠点に活動していたとみるべきでしょう。決して鳥越城だけが一揆の拠点ではなかったのです。

しかし二曲(鈴木)右京進や鈴木出羽守の存在や、門跡・掘立柱建物跡・礎石建物跡・排水溝・井戸跡・土塁・柵列の遺構をもつことから、鳥越城を単に二つの拠点とするわけにはいきません。

とはいえ鳥越城単独で織田勢と対峙していたとは思えません。各城館と連携して、初めて鳥越城が本拠となりえたのでしょう。

そこで考古学・文献史上から確認できる、鳥越城跡・二曲城跡に佐良城跡・瀬戸丸山城跡・舟岡山城跡(以上、白山市)・虚空蔵山城跡(能美市)・波佐谷城跡(小松市)・檜谷城跡(加賀市)の現況と略図をパネルによって比較します。

次に「金沢御堂と山内」では、

山内衆が力をたくわえて活躍する様子を紹介します。

金沢御堂は尾山御坊とも呼び、大坂本願寺の別院とでもいうべき重要な施設です。この御堂に大坂から下向して滞在する本願寺内衆と関係を結んで山内衆は、四郡の一揆とは異なる行動をとっていきます。

この行動が金沢御堂陥落後も抵抗することに繋がっていったようです。この点を古文書等によって紹介します。

さらに「二曲

城跡を掘る」は、

白山市出合町に所在する二曲城跡で行われた発掘の成果を公開したいと思えます。鳥越城跡とともに国の史跡に指定され、

本格的な発掘調査がまたれていました。平成16年度から始まった調査の内容を、出土遺物や遺構の写真によって紹介します。

以上のように本年度の企画展は、前述のように考古学と文献史学の成果を取り入れる試みとでもいえるでしょう。(文責 正善)

企画展 会期 平成21年3月3日(火)

5月31日(日)

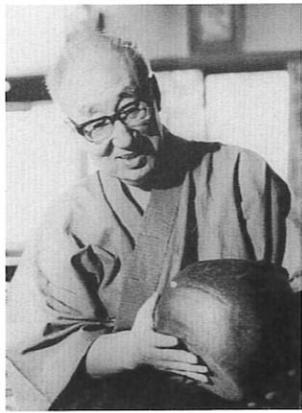


二曲城出土遺物 16世紀後半の古瀬戸や中国陶磁器門

加藤楸邨しゅうそんと松任

加藤楸邨

明治38年(1905)
〜平成5年(1993)



加藤楸邨肖像

現代俳句の巨人、加藤楸邨(本名、加藤健雄)は、大正12年旧制金澤一中(現金沢泉丘高校)を卒業後、二年間に渡って松任小学校で代用教員を勤めています。

父の病

楸邨の父は鉄道院に勤める鉄道官吏で、各地の駅長を転任したことから楸邨の少年時代は転校の連続でした。

金沢は母の郷里で、父の退職後の住地として金沢に移ったの

です。母の実家は浅野川辺にあり、ここで楸邨は四高進学を目指していましたが、父が重い病にかかって貯えもつき一家は一気に貧窮することとなります。

松任小学校

こうして、四高進学を断念した健雄青年は、困窮した家族を支えるため、松任小学校の代用教員として働きはじめたのです。

当時、松任小学校は、松任駅に近い現在の松任学習センターの位置にありました。既に石同新町の新校舎への移転が決まっており、また、ようやく前年に男児小と女児小が合併して松任小学校が誕生し、1000人近い子ども達が通う大規模校となったところでした。

しかし、わずかな代用教員の俸給では到底、一家の生活を支えることはできず、健雄青年は深い苦悩を抱え続けていました。

あんころ餅

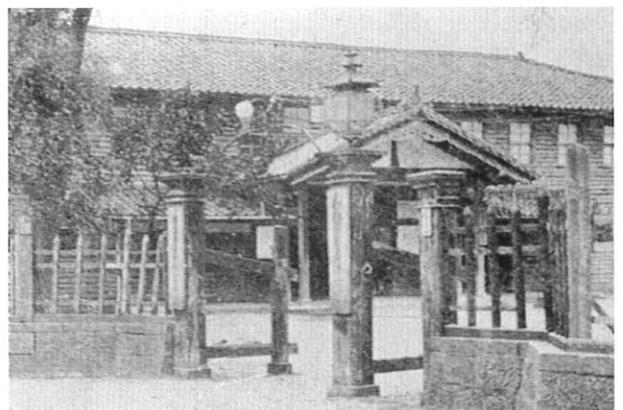
楸邨は、その随筆集の最初に「わたしの俳句の思い出はかならず短歌とあんころ餅が先行する」と書き出しています。

当時の楸邨の心をなぐさめたのは、松任のあんころ餅でした。「あんころぐらひと人はいうであろが、私の青春はこのあんころを離しては存在しない。意地汚ない青春だと囁かれるにちがいないが、これがなかなか食えなかつたものの実感なのである」と書いています。

おかりや

俸給は全て母に渡していたことから、あんころ餅代稼ぎのため、宿直の代行をかつて出では、学校の前のおかりやの大樹の下でたまに口にする他なかつたのです。

此の宿直の代行は、健雄青年に思わぬ結果をもたらします。宿直の夜に学校の合併に伴う凶



旧松任小学校正門

書の整理を続けるうち、本を読みふけるようになり、やがて取り付かれたような本の虫となつていったのです。

善の研究との出会い

一年ばかり図書の濫読を繰り返していましたが、やがて西田幾多郎の『善の研究』に出会います。「そこでぶつかったのが「純粹経験」ということばであった。」心に残ったこの言葉に昼も夜も思いを巡らして行くうち、「この本が



大正13年の加藤楸邨

人の生きるという問題を極めて真剣に探求している」ことに気づいたのです。

ある日、おかりやの大樹の下であんころ餅を食べながら考えをめぐらせているとき、「大樹の走り根に、大地にしがみついて生きる意志そのものの存在」を見い出します。そして、自分が「生きる」ということがわからないために「いらだつていた」ということに思いあたったのです。

また、フランスの哲学者ベルグソンのエラン・ヴィタール（『創造的進化』）ということばを知ります。「人間の内深く寸毫も過去にたち戻ることを許されないものがあること、無限に創造してやまない生活の飛躍のあることを教

えられた。」と書いています。

俳句との邂逅

父の没して金沢を引き払い上京した後も苦闘は続き、苦学して臨時教員養成所を出た後、昭和4年、埼玉県の旧制粕壁中学に奉職します。

昭和6年、先輩教師達に勧誘され俳句を始め、たまたま別用で春日部に通っていた当時4Sと^(注)呼ばれた有力俳人の一人、水原秋^(注)桜子と出会います。

人間探求派

昭和12年、秋桜子の勧めにより粕壁中学を辞し、東京文理科大学（現筑波大）に入学してからは著しい活躍を始めます。昭和14年句集「寒雷」を発表、俳句研究の編集長であった山本健吉は、中村草田男・石田波郷・加藤楸邨・篠原梵を集めて座談会を開き、楸邨らを「人間探求派」と名づけました。

楸邨が俳句雑誌「寒雷」を発刊、研究雑誌としての性格の強い「寒雷」に俳句を根源から問い直すような俳論を次々と展開すると多くの英才が集まり、沢木欣一、金子兜太、森澄雄など、後に楸邨山脈と呼ばれる俳人達が育つてゆきます。

松任での西田哲学との出会いは、俳句態度の土台を支えるものとなり、楸邨はその後松任を深く愛しつづけました。



大正11年の松任城址

松任再訪

大正14年、金沢を去るにあたって最後の別れをおかりやに告げにきた楸邨は、昭和17年8月、



おかりやの大樹の下で知世子夫人と

沢木欣一らと、昭和34年3月には長男の穂高、森澄雄らと松任に立ち寄っています。

昭和57年には、妻の知世子を伴い、三度目の松任行を行い、代用教員時代の先輩教師であった安嶋ゆきさんの自宅を訪問しました。「あなた、職員室のどの机におりましたがや」「あなたは、着物着て袴をはいておられた人やね」「お互いにあの時分な若かった」「まるで夢のような気がする」

(文責 金山)

(注) 4S

ホトトギスの4Sと呼ばれる俳人とは水原秋桜子・高野素十・山口誓子・阿波野青畝

参考文献

加藤楸邨全集第6巻他

白山市 Museum ガイドマップ



駐車場 俳句館・美術館のご利用には、松任駅南の立体駐車場をご利用下さい。3時間無料です。駐車券を受付までお持ち下さい。

これらの地図は、国土地理院発行数値地図2500「北陸」の一部を使用したものである

至 松任博物館

ご利用のご案内

休館日 白山市立の各館の休館日は月曜日(祝日の場合は翌日)です。また、年末年始(12月29日～1月3日)も休館します。

その他、各館で展示替などのための臨時休館がございます。

入館料の特典 松任博物館・俳句館・美術館の入館料は、3館で一般200円・高校生100円・団体100円、8日間有効です。石川ルート交流館と呉竹文庫の共通入場券は400円です。

JAF会員・ほっと石川会員は白山市立の各館に団体料金で入館できます。

松任博物館



白山市立松任博物館は昭和63年8月に松任市立博物館として開館、平成17年2月、白山市の発足に伴い、白山市立松任博物館と改称しました。手取川扇状地の文化・歴史的資料を公開する文化施設として、広く市民に親しまれています。人間国宝、故隅谷正峯氏の刀剣制作風景を展示しているほか、国指定史跡「東大寺領横江荘々家跡」の資料、国内有数の稲作農業地帯であった昭和初期の扇状地の農村の様子と、そこに育まれた暁鳥敏などの先人の業績を展示しています。

また、鉄道模型の展示広場、焼失前の法隆寺金堂壁画の展示室を設けています。

- 住所 / 白山市西新町1 68番地1
- 電話番号 / 076-275-8922 Fax : 076-275-8929
- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は 16:30まで)
- 入館料 / 一般200円、高校生・団体100円、小中学生以下無料

松任中川一政記念美術館



日本洋画壇の巨匠で、白山市にゆかりが深い文化勲章受賞者、故中川一政画伯の作品寄贈を受けて建てられた記念美術館です。一政の母親が市内相川新町出身であり、自身も幼い頃や青年時代に母の郷里である松任に足を運んだという縁で、一政本人より絵画の寄贈をうけ昭和61年10月10日に『中川一政記念美術館』として開館いたしました。

現在は、油彩・岩彩・書・陶器など244点の作品を収蔵しております。その中から常時60点余りを展示し皆様にご覧いただいております。

- 住所 / 白山市旭町61番地1
- 電話番号 / 076-275-7532 Fax : 076-275-7532
- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は 16:30まで)
- 入館料 / 一般200円、高校生・団体100円、小中学生以下無料

千代女の里俳句館



「朝顔やつるべとられてもらひ水」の句で広く知られる加賀の千代女は、元禄16年(1703)に加賀国松任(現白山市内)の表具師の娘として生まれました。そして、その後現代に至るまで、白山市内では俳句が盛んに行われてきました。

千代女の里俳句館では、千代女を始め多くの俳人達について、映像や作品、寄贈いただいた句集等を紹介するとともに、子ども達や外国人にも俳句を楽しめるようなコーナーを備えています。

また、千代女全国俳句大会や少年少女俳句大会などの俳句事業を開催するほか、俳句愛好者の方々には気軽な句会の場としてもご利用いただけます。

- 住所 / 白山市殿町57番地1
- 電話番号 / 076-276-0819 Fax : 076-276-8190
- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は 16:30まで)
- 入館料 / 一般200円、高校生・団体100円、小中学生以下無料

松任ふるさと館



「松任ふるさと館」は明治・大正・昭和初期に金融・米穀・倉庫業等で活躍した吉田茂平氏の私邸で、市内安吉町にあった家屋を、大正元年に交通の要衝である松任駅前に移築したもので、昭和57年に市が譲り受けて文化施設として開館しました。

ふるさと館の見どころは何と言ってもその美しい庭園にあり、池や滝、築山が配された回遊式庭園には多くの名石や石灯笼が、四季の彩りを映しています。敷地内には美術館の別館もあり、人々の憩いと安らぎの場として親しまれています。

平成13年10月12日に、母屋部分、門、門の両側の物置が国の登録有形文化財に指定されています。

- 住所 / 白山市殿町56番地
- 電話番号 / 076-276-5614
- 開館時間 / (9:00～17:00 (入館は 16:30まで)
- 入館料 / 無料 (館内施設使用は有料)

友の会のご案内 ご入会のお申込みは各館まで

博遊会 年間会費2000円(家族会員1000円)

松任博物館・鶴来博物館・千代女の里俳句館・松任中川一政記念美術館に無料で入館できます。講座、コンサート、展示ボランティア活動などの事業を行っています。

松任中川一政記念美術館友の会 年間会費1000円。

松任中川一政記念美術館に無料で入館できます。

鳥越一向一揆歴史館友の会 年間会費1000円、歴史館に無料で入館できます。会報・企画展の資料を進呈します。

美川地区



おかえり祭り 5月第3土曜日、日曜日
石川県を代表する祭りのひとつです。
共通入場券 ルーツ交流館と呉竹文庫
共通入場券は、おとく400円です。

白山市の文化施設



本図は国土地理院発行1:250000図を元にイラスト的に作成したものである

鶴来地区



石川ルーツ交流館



石川県最大の河川、手取川の河口に位置する美川は、江戸時代に北前船の寄港地として繁栄し、1872年（明治5年）には県庁が置かれていました。現在の石川県の名は、当時の石川郡美川町の「石川」という郡名に由来して付けられたもので、美川は石川県のルーツと言えます。

石川ルーツ交流館は、県庁が置かれた明治初期の知事室の再現、北前船、手取川の自然や治水、手取川流域に伝わる民話などを子供達にもわかりやすく紹介しています。

- 住所 / 白山市美川南町又138-1
- 電話番号 / 076-278-7111 Fax: 076-278-7177
- 開館時間 / 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入場券 / 一般300円、団体200円、15歳以下無料

鶴来博物館



鶴来博物館は、昭和39年11月、旧鶴来町出身の実業家故山田甚太郎氏が、別荘としていた朝日城（昭和37年築）を旧鶴来町へ寄附し、町立山田記念博物館としてスタートしました。

昭和56年11月、城郭に併設して新館を建設、鶴来町立博物館とし博物館法に基づく登録博物館となりました。

白山信仰の加賀側（加賀馬場という）の起点として栄えた鶴来の街や近郊の農村の歴史・文化・風俗などを紹介する博物館です。

- 住所 / 白山市鶴来朝日町81
- 電話番号 / 076-273-1522 Fax: 076-273-5751
- 開館時間 / 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料 / 無料（企画展・特別展は別途）

鳥越一向一揆歴史館



鳥越城は、日本の中世史に特筆される一向一揆終焉の地です。

鳥越一向一揆歴史館は、全国で唯一の一向一揆の資料館です。

全国的な視野で、一向一揆の誕生から終焉までを映像や展示でわかりやすく紹介しており、百年にわたり「百姓のもちたる国」として栄えた加賀一向門徒による共和国の歴史を示すとともに、史跡 鳥越城跡・二曲（ふたけ）城跡の出土品を展示しています。

- 住所 / 白山市出合町甲26
- 電話番号 / 076-254-8020 Fax: 076-254-8020
- 開館時間 / 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 入館料 / 一般300円、団体250円、中学生以下無料

その他の市内文化施設

市民工房うるわし
住所 白山市取町62-5
TEL 076-274-2511

多川家
住所 白山市四ツ屋町38番地
TEL 076-277-1718

太鼓の里資料館
住所 白山市福留町148番地
TEL 076-277-1721
規定の休館日 火曜日

呉竹文庫
住所 白山市湊町ヨ146
規定の休館日 月曜日

石川県ふれあい昆虫館
住所 白山市八幡町成3
TEL 076-272-3417
規定の休館日 火曜日

石川県林業試験場展示館
住所 白山市三宮町ホ-1
TEL 076-272-0673
開館時間: 9:30-16:30
休館期間: 11月～3月下旬

吉野工芸の里
住所 白山市吉野春29
TEL 076-255-5319
規定の休館日 火曜日

**石川県白山自然保護センター
中宮展示館**
住所 白山市中宮オ9
TEL 076-256-7111
開館期間 5月1日～11月上旬
(期間中は無休)

石川県立白濁ろく民俗資料館
住所 白山市白峰リ30
TEL 076-259-2665
規定の休館日 木曜 冬期休館

白山恐竜パーク白峰
住所 白山市桑島4-99-1
TEL 076-259-2724
規定の休館日 木曜日
夏休み期間無休 冬期休館

白山砂防科学館
住所 白山市白峰ツ40番地1
TEL 076-259-2990
規定の休館日 木曜

白山工房（牛首純）
住所 白山市白峰ツ17
TEL 076-259-2859
休館日 4月～11月（木曜）
12月～3月（日曜）

刀剣展が始まるまで

松任博物館開館20周年記念事業として故隅谷正峯刀匠没後10年追悼展「国宝の輝き」日本刀の美と名匠の技」（以下刀剣展と呼称）を開催いたしました。約10年ぶりの刀剣展は準備期間約2年をかけ、かなり規模の大きい展覧会となり県内外から多くの方々にご来館をいただきました。そこで、刀剣展開催までの四方山話の一部を日記風に紹介します。

平成19年3月0日 松任博物館開館20周年記念事業として、刀剣展を行うことが決まる。でも、私が担当で大丈夫か？不安がつきまとう……。とりあえずは日本刀について、改めて勉強を始めることにした。

平成20年2月0日 刀剣展

のお願いに、群馬県で活躍されている人間国宝の大淵俊平刀匠のお宅にお伺いする。誰かの紹介や口添えがある訳でなく、とても緊張。（もちろん事前にはアポは取り付けてあります。）でも、大淵先生にご快諾をいただき一安心、というかその場ではカが抜けていく感じだった。その日は先生や奥様と（帰りの電車時間ぎりぎりまで）日本刀についてお話を伺うことができました。

平成20年5月0日 淵谷先生

が、横綱琴櫻のために鎌倉の御刀の借用について、千葉県の佐渡ヶ嶽部屋へお伺いする予定を組む。前回の打合せでは大相撲5月場所が終わる頃に連絡することになっていたが、5月場所が佐渡ヶ嶽部屋の琴歐洲が優勝！刀剣展に華を添えてくれたようで嬉しかった。

平成20年5月0日 刀剣展の

資料調査とお願いのために関東から東北を経て、北海道根室へまで行く。一席の調査出張で何人もの方にお願いで歩くため、時間と予算のバランスを考慮し（全行程を電車で行くことにしたが、担当者の体力を考慮して）なかつたため後で後悔する羽目に。帰りは根室駅から松任駅まで一歩も駅外に出ることなく、本営に一日（24時間）をかけて帰館。正直疲れの一言。でも、お会いできた皆様に大変親切にしてくださいただけが、一番のお土産（というか成果）になった。特に淵谷先生とお会いしたことになった私にとって、先生の人となりを知ることができたのは本当に収穫だった。

平成20年7月0日 いよいよ

刀剣展開催！初日から多くの方にご来館いただき、担当の私は不感の思い。後は感謝と無事に終わることを祈るだけ。



会場は隅谷ファンや刀剣愛好家で盛況でした

紙面の関係で全部書けないのが残念です。（まだ書きたいエピソードがいっぱいあります。）そのような中で、至らぬ担当者の私を、隅谷家をはじめとする多くの皆様方に支えていただけたことが、隅谷先生の節目の年に行われた今回の刀剣展を成功に導いたものと深く感謝し、この紙面を借りて改めてお礼を申し上げます。

（文責 山下）

小説に描かれた美川町

当石川ルーツ交流館では、平成20年度事業として『小説に描かれた美川町』『女の手取川』の著者・三田薫子特別展を開催。県内ばかりでなく、東京、大阪、名古屋、新潟から来館者がありました。

展示内容は小説や生原稿、イラスト、作品の舞台が解る美川町MAP、「女の手取川」三部作のモデルである母堂の花嫁衣裳や花嫁暖簾などで、華やかな中にも当時の世相を感じさせるものでした。処女小説には美川地区の歴史・文化が描かれており、来館者の方々も当時の美川を懐かしんでおられました。

展示期間中には『三田薫子トークショー』が行われ「母の生きざまを問う」と題し、母堂との思い出や理想の母親像について三田さんに熱く語っていただきました。



三田薫子トークショー

三田薫子さんは美川浜町出身の作家で、安産川や手取川など「川」を舞台に、そこに生き抜く女性を描いた作品で注目されています。「女の手取川」「緋は紅よりも」「冬化粧」の三部作のほか「黄昏川」「海上回遊都市」「加賀平野」等多数の小説を執筆。一九九〇年には「我がまち水辺の未来の夢」「夢ロード21・未来の道」の二編の論文で、建設大臣賞

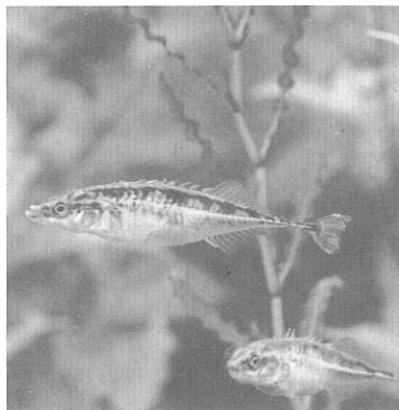


解説を熱心に聞き入る来館者

を受賞するなど、郷土に根ざした創作活動を続けておられます。また、女性初の県内水面漁場管理委員会委員や手取川水系流域委員会委員など数多くの公職も務められておられます。

三田薫子さんは「手取川の応援団長」を名乗られており、今後も手取川に深く携わった活動をなされますようご期待申し上げます。
(文責 北潤)

はりんこ(トゲウオ科トミヨ属)
石川県天然記念物(美川地区生息地域指定)



はりんこは、背9本前後とわき腹に二対のするどいトゲをもつ純淡水魚で、湧き水が豊富で流れのゆるやかな場所に生息しています。

昔の川では、自然に生きることができたのですが、環境汚染の進んでいる最近では、保護してやらなければならぬのです。私たち人間は、お互いにかげがえのない命を大切に、もつとこれからも環境を考えなければいけませんね。

松任中川政記念美術館

特別展「中川一政と茶道具の世界」

会期 平成20年9月20日(土)
～11月16日(日)



十代 大榎長左衛門氏

洋画家

中川一政は、油彩、書、等の他、70歳を過ぎてから陶芸もされ97歳で亡くなるまで、生涯現役で充実した人生を過ごされました。

今回、特別展では一政と親交のあった陶芸家 十代大榎長左衛門氏には、中川一政の陶器について講演をしていただきました。また席主裏千家今日庵業躰部講師 奈良宗久氏の茶会も催し、新たな一政の魅力を感じとっていただきました。

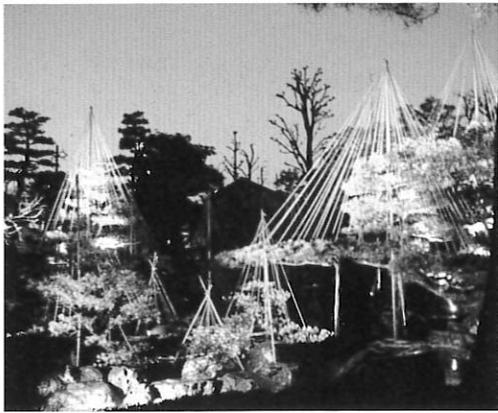
松任ふるさと館

庭園ライトアップ
「七夕・月見・雪見夜灯」

2年目を迎える庭園ライト

アップ「夜灯シリーズ」は昨年から行ってきた、「茶会、句会、演奏」に加え、「朗読、民踊、大野からくり人形」など、より豊富な内容で多くの方々に見ていただくことができました。

また、千代女の里俳句館玄関前の駅南広場では市民ボランティアによる竹灯籠の点灯や屋台等が行われました。



雪見夜灯 紫雲園ライトアップ

鶴来博物館

特別展「白山への道～恐竜時代へのタイムトンネル～」

会期 平成20年10月11日(土)
～11月30日(日)



化石発掘体験

この展覧会は、東京・国立科学博物館とのコラボレーション事業として実施され、石川・福井・岐阜県に分布する手取層群より産出した、石川県指定文化財を含む動植物化石約100点が展示されました。

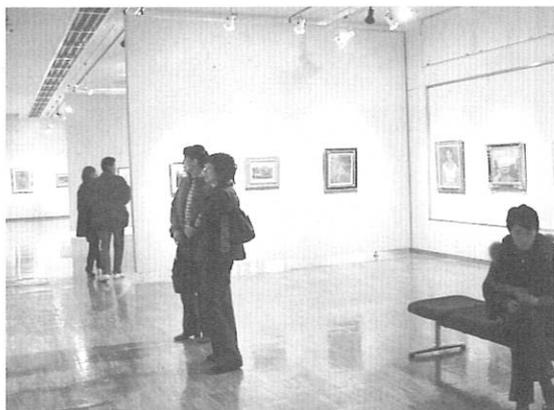
会期中の26日には、国立科学博物館の真鍋真研究主幹による講演会や化石発掘体験教室が開催され、来館者たちは古代へのロマンに思いを馳せていました。

松任博物館

企画展「Tコレクション」展
「コレクションは自己表現に
なりうるか」

会期 平成20年11月1日(土)
～11月30日(日)

当館では、白山市在住のT氏にご協力いただき、石川県にも縁のある宮本三郎、鴨居玲をはじめとする油絵59点の展示を行いました。期間中は、県内はもとより、県外からも愛好家の方々が訪れ、じっくりと鑑賞されました。



Tコレクション展

平成21年度行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鳥越一向一揆歴史館	鳥越城と山内の城郭			金沢御堂と山内				二曲城跡を掘る			常設展示	
千代女の里俳句館	市内の俳句展	市内の俳画展	つるもりひろこ人形作品展	西のぼる作品展	写真と俳句展	特別展石川の俳人展	松任俳句協会会員展	千代女作品特別陳列	千代女・一茶のふるさと交流展			こども達の俳句展
松任博物館	一品展 (郷土ゆかりの画家たち)	白山市の考古学展		日本の凧と手作りおもちゃ展		一品展	刀剣展		一品展		一品展	
石川ルーツ交流館	第4回八木繁・幹音会篠笛コンサート	手取川洪水展	昆虫展	夏休み体験教室		コンサート		常設展示			コンサート	
松任中川一政記念美術館	常設展示	出張美術展		花を描こう 絵画展				常設展示				
鶴来博物館		常設展示				白山への道 白山ろくの伝統芸能展				常設展示		
松任ふるさと館			庭園ライトアップ	七夕夜灯		月見夜灯				雪見夜灯		

*事業の詳細については各館までお問い合わせください

ご寄付ありがとうございます。平成20年関係

《千代女の里俳句館》

- 朝鮮通信使行列絵巻 白山市 西 のぼる 様
- 加藤楸邨関連資料等 白山市 平本 和男 様
- 千代女作品及び俳句資料等 金沢市 橋本 啓子 様
- 俳句関連古書等 金沢市 小笠 泰一 様

《松任中川一政記念美術館》

- 中川一政画伯 馬千里云々詩文 (額装・墨書) 金沢市 大樋長左衛門 様

石川ルーツ交流館

- 東影明陶芸品 (九谷大皿 他17点) 白山市 東 文博 様

編集後記

《出会い・感謝・感動・コレクション》

平凡な時間を過ごす自称長距離ランナー。人生大きな困難もなく、いか過ぎ去ったことは《ゴミ箱》というところへクリックして終了。長距離ランナーでも「応寄り道はした。たまには短距離を頑張ってみよう。すばらしい深い世界と感動として出会いに巡り合えた。日常の忙しさに追われ《感動》という文字を忘れていたが、コレクターの輝きに魅力を感じ、準備期間も素晴らしい時(とき)を頂くことができた。人生の中でたまには短距離もいいかもと感じ、また長距離ランナーへと戻る。感動と感謝を忘れずに。

F・U



朝鮮通信使行列絵巻陶板 千代女の里俳句館